

No	⑧	分類	3-(2)-ア	資料名	情報化社会、何を大切に？	学年	5・6年	領域	総合的な学習の時間
----	---	----	---------	-----	--------------	----	------	----	-----------

1 ねらい

- インターネットやメールによる人権侵害を知り、コミュニケーションのとり方において気をつけなければいけないことを考える。

2 趣旨

- 情報化社会の良い面や悪い面を理解し、いろんな人の立場や気持ちに配慮した情報機器の活用方法を考えさせる。

3 配慮事項

- 児童のインターネットやメールの活用状況や、情報化社会に起きている問題を指導者が把握しておく。
- 「情報化社会を生きる」(第2部)を併用し、紹介しているHPを事前、事後に活用することで、より深く考えることができる。
- シナリオに添って、ロールプレイを取り入れたり、資料をいくつか区切って考えさせてもよい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料を読み、メール等により、24時間、簡単にメッセージが書き込める現在の情報化社会の様子を知る。</p> <p>2 情報化社会の問題点について考える。</p> <p style="text-align: center;">メールでの連絡は、出会って話すこととどんなちがいはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでもどこでも連絡することができる。 ・記録が残る。メモをとらなくてもいい。 ・2人だけの秘密の情報のやりとりができる。 ・直接言いにくいこともメールなら書ける。 ・相手の顔が見えない。 ・すぐに答えたり質問したりすることができない。 <p style="text-align: center;">メールで悪口を受け取ったみほちゃんはどうな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。 ・どうして直接言ってくれないのだろう。 ・自分の何が悪かったのかなあ。 ・もう友だちでいたくない。 ・腹が立つ。 ・自分も相手の悪口を書き込もう。 <p>3 メールでの言葉の使い方を考える。</p> <p style="text-align: center;">「心と心をつなぐかけ橋」となるためにはどのように言葉を使うことが大切でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会って話す以上に丁寧な言葉を使う。 ・自分の気持ちを理解してもらえる様な言葉を工夫する。 ・相手を傷つけない言葉を使う。 ・相手が喜びそうな言葉を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールやインターネットについて、あまり理解していない児童がいれば説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の表情や声の大きさを感知することができず、気持ちがすれ違ったり、傷つけたりする可能性があることに気づかせる。 ・メールでのやりとりの悪い面ばかりが強調されないように留意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・直接言われるよりも、相手の怒りや悲しみが増幅する可能性があることをおさえる。 ・メールやインターネットでの発信を通して、誹謗・中傷等の、重大な人権侵害が起こっていることをおさえる。 ・悪気なく書き込んだことが、やがて大きなトラブルに発展していく場合があることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉は時に人を大いに喜ばせ、時には大いに傷つけ苦しめるものであるから、自分の言葉について、気を配ることの必要性を認識させる。 ・メールは素直に言いにくいことを伝えられ、相手をあたたかい気持ちにさせることも理解させ、有効に活用しようとする気持ちをもたせる。

5 参考

- 本資料は、たつの市揖保川町人権啓発支援資料「こころのスケッチ 14」を改編したものである。(平成 20 年 3 月 ライフデザインいばがわ編 たつの市教育委員会発行)